

[文献索引] 鎌倉文庫刊『社会』総目次・執筆者名索引 (1946年9月・第1巻第1号～1949年5月・第4巻第5号)

その他のタイトル	[Bibliographic Index] The Total Contents and Authors Index of Magazine Shakai Published by Kamakura-Bunko
著者	辻 秀平
雑誌名	千里山文學論集
巻	103
ページ	267-307
発行年	2023-03-01
URL	http://doi.org/10.32286/00027938

[文献索引]

鎌倉文庫刊『社会』総目次・執筆者名索引

(1946年9月・第1巻第1号～1949年5月・第4巻第5号)

辻 秀 平

1. 鎌倉文庫関係目録類の現況

アジア太平洋戦争末期の1945年5月、神奈川県鎌倉一帯に居住していた久米正雄や川端康成を始めとする「鎌倉文士」の文学者達は、各々の蔵書を持ち寄り、貸本店鎌倉文庫を開業した。やがて同年9月に鎌倉文庫は出版社へと発展し、本格的な活動を開始した。その後1949年秋に経営破綻するまでの約4年の間、鎌倉文庫は数多くの単行本や、文芸雑誌の『人間』、『ヨーロッパ』、『文芸往来』、婦人雑誌の『婦人文庫』、総合雑誌の『社会』という5種類の雑誌を刊行し、当時無名だった三島由紀夫を始め戦後派の新人作家に最初の活躍の場を提供した。戦争の爪痕が残っていたGHQ/SCAP 占領下の文壇や言論界で鎌倉文庫は存在感を放ち、多くの作家を引き寄せる核となったのである。

こうした鎌倉文庫は、戦後日本の文学史やメディア文化史などを見る上で重要な役割を果たした存在だと考えられるが、活動の実態が詳細に分析されたことは殆どなく、研究が進捗していない。研究資源となる目録類についても完備されているとは言い難い。

ここで、天野敬太郎・深井人詩編『日本雑誌総目次要覧』（日外アソシエーツ、1985年2月）、国立国会図書館逐次刊行物部編『国立国会図書館所蔵 国内逐次刊行物総目次・総索引一覧（平成7年1月末現在）』（国立国会図書館図書部、1995年4月）、天野敬太郎・深井人詩編『雑誌新聞文献事典』（金沢文圃閣、1999年9月）の情報を踏まえつつ、本稿の執筆ま

でに管見に入った鎌倉文庫関係の目録類の情報を整理すると、以下の通りとなる。また、これと併せて、「国立国会図書館デジタルコレクション」採録のテキストによる目次情報や、国立国会図書館の蔵書検索システム「国立国会図書館オンライン」上で検索可能な、国立国会図書館編「雑誌記事索引」の情報も併記した。これらのオンラインサービスは、無償かつ常時一般の利用に広く供されているものであり、採録されている目次情報が一部に限られていても、研究資源として活用し得るものと判断した。

① 単行本

- (無署名)「鎌倉文庫出版リスト」(小田切進監修『鎌倉文庫と文芸雑誌「人間」』大空社、1993年3月) pp.284-294.
- 土屋定夫「〈研究ノート〉鎌倉文庫の出版物と参考文献について」(『郷土神奈川』第38号、神奈川県立図書館、2000年) pp.30-38.
- 尾崎名津子「鎌倉文庫の単行本出版目録」(『跨境 日本語文学研究』第11号、高麗大学校日本研究センター、2021年4月) pp.235-252.

② 『人間』

- 大伴ひでと「第2期「人間」細目」(『国語国文学報』第十六集、愛知学芸大学国語国文学会、1963年3月) pp.21-71.
 - (無署名)「IV「人間」総目次」(小田切進監修『鎌倉文庫と文芸雑誌「人間」』大空社、1993年3月) pp.176-282.
- ※「国立国会図書館デジタルコレクション」では大半の目次情報¹⁾、「雑誌記事索引」では目次情報の一部が採録²⁾。

③ 『文芸往来』

- O「資料『文芸往来』総目次(1)」(『叢書月刊』第2巻第8号、弘隆社、1986年7月) pp.14-16.
- 岡野幸江「資料『文芸往来』総目次(2)」(『叢書月刊』第2巻第

9号、弘隆社、1986年8月) pp.21-22.

※「国立国会図書館デジタルコレクション」では大半の目次情報³⁾、「雑誌記事索引」では目次情報の一部が採録⁴⁾。

④ 『ヨーロッパ』

- 拙稿「鎌倉文庫刊『ヨーロッパ』総目次（1947年5月・第1巻第1号～1948年12月・第2巻第9号）」（『千里山文学論集』102号、関西大学大学院文学研究科、2022年3月）pp.33-52.

※「雑誌記事索引」では目次情報の一部が採録⁵⁾。

⑤ 『婦人文庫』

※管見の限り既刊の目録類は無い。また、「国立国会図書館デジタルコレクション」では目次情報の一部が採録⁶⁾。

⑥ 『社会』

- 東京大学社会科学研究所戦後改革研究会編『戦後雑誌目次総覧・上』（東京大学出版会、1976年3月）pp.180-181、pp.312-315、pp.464-466、欠号多数あり。

※「雑誌記事索引」では目次情報の一部が採録⁷⁾。

稿者は前稿「鎌倉文庫刊『ヨーロッパ』総目次（1947年5月・第1巻第1号～1948年12月・第2巻第9号）」において、『ヨーロッパ』の総目次を作成した。本稿はこれに続いて、『社会』総目次の作成を目指すものである。

本稿に先立つ『社会』の目録には、上掲した『戦後雑誌目次総覧・上』収録のものがある。だがこの総覧には既に批判が見られる⁸⁾ように、目次情報の欠落が多い。『社会』に限っても第1巻や第2巻に欠号が多く、収録された巻号にも情報の欠落が見られる。

この他、メリーランド大学所蔵のGHQ/SCAP 占領期の出版物コレクション「プランゲ文庫」の目次情報が検索可能な有償データベース「20世紀メディア情報データベース」⁹⁾にも、『社会』の目次情報が多く収録されており、記事の基本情報が確認できる状態にある。このデータベースは

「プランゲ文庫」のマイクロ資料の利用の一助となるべく作られたものでもあるため、検閲の有無といった情報に明るいのが、その一方で雑誌の形態に関する情報（判型の変遷、定価、表紙絵やカット絵の作者情報、誤記に関する情報、印刷所・配給元の情報など）が無く、ある特定の雑誌だけに注目し、その傾向を俯瞰的に把握するには力不足である。

そこで本稿では、将来の鎌倉文庫研究における研究資源とするため、改めて『社会』の総目次を作成し直し、そのデータをもとに執筆者索引・創作欄掲載小説一覧を付し、雑誌の概要をまとめた。目次作成の際には雑誌の紙媒体の現物に基づいてデータを採録することを旨とし、タイトル記載の際には仮名遣いはそのままとし、旧字体は新字体に改めた。なお目次データの採録にあたっては、以下の機関所蔵の雑誌を閲覧した。

- 第1巻第1号～第2巻第8号、第2巻第10号～第3巻第2号、第4巻第2号：公益財団法人日本近代文学館（東京都目黒区）
- 第2巻第9号、第3巻第3号～第4巻第1号、第4巻第3号～第4巻第5号：関西大学総合図書館（大阪府吹田市）

2. 総合雑誌『社会』の概要

『社会』は、1946年9月から1949年5月にかけて、延べ30号にわたって刊行された月刊総合雑誌である。創刊当初はB5版で発行され、印刷は凸版印刷株式会社、配給は日本出版配給株式会社が担っていた。創刊号巻末の「編集録」には、

★既刊の文芸誌『人間』に列んで、出発すべく、誌名も『社会』と名付けました。

本誌のあり方を、敢へて申すなら、「人間」に対する「社会」——即ち、人性的な理知と友愛の中に育かれねばならぬ市民的精神に基準した、自由世界の営みと進歩を意味したものであり度いのです。

その企図を、表紙下部に MONDE（世界）と飾ってみました^{10）}。

という記述が見られる。

鎌倉文庫は1946年1月、久米も関与していた大正期の文芸同人誌の名を復活させる形で『人間』を創刊している。『人間』の創刊時には、「敗戦国日本といふ悲愴な現実をめぐつて、謙虚に反省」し、文芸を通して「厳しい自己批判」¹¹⁾を追求するというような理念が掲げられている。こうした人間精神の内部を掘り下げる『人間』に対し、『社会』の立場はそれと対になる、人間社会の姿を描き出すことを企図するものであり、この二誌はいわば車の両輪のような相補的な関係にあったとみられる。

また上掲した「編集後記」にあるように、『社会』は欧題にフランス語で「世界」を意味する「Monde」、あるいは「Le Monde」を掲げている。創刊号にある編集部名の「『社会』と MONDE について」という告知記事では、この欧題について、

これは、日本語としては比較的新しい言葉である「社会」から受け勝ちな生硬な感じを避けて、「社会」にもつと広い意味を持たせたいと意図したからに他なりません。強いて言へば「世の中」或は「世間」とでも言へませうか¹²⁾。

とある。だが、アメリカナイズ著しい占領期にあつて、敢えてフランス語で欧題を表記した理由は明確には述べられていない。

『社会』は創刊後しばらくの間、充実した誌面構成となっている。創刊号ではグラビアに始まり、様々な評論記事には大河内一男や宮澤俊義といった一線級の学者や、羽仁説子、山室民子のような女性評論家、社会活動家の名前も見える。第1巻第2号では当時の世相を論じた「座談会 新らたなる意志と」が掲載されており、高松宮宣仁親王、農学者の那須皓、アーニー・パイル劇場の音楽家伊藤道郎、鎌倉文庫側の代表で久米正雄が参加するという力の入れようが注意を引く¹³⁾。

1947年からは、読者に誌面の一部を開放し、企画や編集の一切を委ねる「読者編集の頁」という、読者参加型の企画がスタートする。「公器としての雑誌を、唯編集者のみのものとせず、可能な限り多数の方々の御意見を

生かしたものとしたい¹⁴⁾という意図のもと始まった企画の初回（第2巻第1号）は、東大の学生有志7名による「世代の対話」に始まる。以後この企画は、婦人民主クラブ「婦人文化運動の今日と明日」（第2巻第2号）、全日本教員組合協議会「愛の運動」（第2巻第3号）、農林省職員労働組合「再建の土壌」（第2巻第5号）、新生活運動連盟「愛と犠牲との生活」（第2巻第7号）の計5回発表されている。

同年、鎌倉文庫は終戦前後から続くインフレの激化と、用紙を始めとする物資不足に苦しめられるようになる。久米正雄は第2巻第3号に寄せた随筆「らくがき帖」の中で、以下のように述べている。

出版も、だん／＼六ヶ敷くなる、見通しがついて来た。鎌倉文庫も、御多分には洩れないかも知れない。それは一つは紙の絶対量が減つて、出廻りが悪くなるだらうと言ふ予想からだが、も一つは、政府が統制を強化すると言ふ段になると、善も悪も区別なく、薬も味噌も一緒に、処理して了ふであらう、と予想されるからである。（中略）今後の出版は、益々棘の道だ。そして、此の三月危機と云ふものも、明に出版界にはあり、軒を並べて出版屋が潰れるのは、目に見えるやうだ。そして其中に、わが鎌倉文庫が入ると入らないとは、誰が云へよう！¹⁵⁾

だが状況は好転せず、第2巻第4号の「社告」では「このまゝにては雑誌、単行本の発行不可能となる事火を見るよりも瞭かな、最悪の状態¹⁶⁾に至ったと明かされ、合併号での刊行が生じるようになる。そして第2巻第7号に至って、次号（第2巻第8号）より判型をB5版からA5版に縮小し、用紙の縮減を図って誌面を一新し、「新しい時代の総合雑誌として新発足」する旨が予告された¹⁷⁾。

「新発足」以後の『社会』は、創刊当初の「市民的精神に基準」するような広範な一般読者を対象とする総合雑誌から、より革新的な色彩を増した言論雑誌へと趣を変化させていく。第2巻第8号の「編集後記」はそうした方向性の転換を予見させるような内容となっており、以下のような編集部の主張が注意を引く。

吾々は現在、日本の民主化が叫ばれ、平和革命といわれ、敗戦革命と称せられる所以、そしてこれが特に革命といわれる歴史的意義を忘れてはならない。それは吾々のこの実現を頑強に妨げている非合理的な圧力を闘争の手段によって排除しようとするからである。ところが闘争を否定し、単なる調和のみを問題とする一部の友愛民主主義者は、愛とか叡智とか観念的美装の下に、その実、自己の利害をのみ考え、真摯なるこの闘争を否定しようとする。これこそ、あやふやの愛の持主であり、民主革命を骨抜きにする、反動的支配階級の友である¹⁸⁾。

「新発足」以前に見られた巻頭の芸能関係の写真グラビアは消え、学術的・専門的な記事が増えていく。中には横光利一、岸田国土、川端、今日出海の4名による座談会「作家の独白」（第3巻第1号）のような文芸関係の記事も見られるが、政治や経済を中心とする“硬派”な記事が誌面の多くを占め、毎号に掲載される記事の本数も少なくなっていく。

鎌倉文庫は1948年頃から経営を悪化させ、翌年に経営破綻するが、それと前後して『社会』は休刊となった。第4巻第5号の「★編集後記★」には「「経済」上の都合で、本誌を休刊しなくてはならぬという発行者の決定に服した」が、「本誌復刊の日が早急におこなわれるように努力し、その障害を克服するために全力を挙げて闘う」¹⁹⁾決意が語られているが、その後再刊されることは無かった。

『社会』創刊と同年には、『文藝春秋』（文藝春秋新社）や『中央公論』（中央公論社）のような戦前の総合雑誌が復刊し、それらが勢いを取り戻すのと引き換えに、『社会』の命脈は潰えたようにも見える。『社会』は過渡的な雑誌であることが否めないが、終戦後いち早く言論の場を提供した点は、今後より客観的に評価されるべきだろう。各記事の詳細な検討は将来の課題とし、機会を改めて検討したい。

3. 『社会』総目次

【刊行期間】1946年9月～1949年5月（全30号）

【誌名】『社会』 “MONDE” “Le Monde”

【発行所】（第2巻第3号まで）東京都日本橋区通一丁目九白木屋内→（第2巻第4号より）東京都中央区日本橋茅場町一ノ二〇 株式会社鎌倉文庫

【印刷所】東京都板橋区志村町五 凸版印刷株式会社

【配給元】東京都千代田区神田淡路町二ノ九 日本出版配給株式会社

【刊行頻度】毎月1回1日発行（合併号あり）

【判型】（第2巻第7号まで）B5版→（第2巻第8号より）A5版

■第1巻第1号「創刊号」（昭和21年9月20日発行、特価5円50銭）

編集人——清水立夫

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠末治

題簽——會津八一

表紙写真（婦人アナウンサー）——
仙波巖（モデル：笠間ミサ）

□グラビア（※ページ番号なし）

- ・伊原宇三郎・絵「今上陛下（御名）裕仁」
- ・武者小路実篤・文「陛下にまうす」
- ・山川菊栄・文「陛下へ私の希ひ」
- ・（無署名）「御経歴」
- ・仙波巖・写真「Camera・Eyes 子供の表情」

- ・清水立夫・文、仙波巖／式田高一・撮影「スターになるには 東宝・ニューフェイス審査より」
- ・B・GOWER、大竹省二・撮影「Ernie Pyle 劇場「アーニー・パイル」の横顔」
- ・（無署名）「社会 創刊に寄せて」……11
- ・小川未明（芹澤銈介・カット）「童話 悲しみを知らない噺」……12
- ・石川年（夢田ユメオ・戯画）「スペクテータ① 新らしい社会が生れてゐる 農村の巻」……14
- ・馬場恒吾「スペクテータの道」……18
- ・天野貞祐「新生二年目への叡智

- とくに復員せる諸兄姉に與ふ——」……19
- 大河内一男「労働階級の自主性——「社会問題」の生誕——」……22
- 編集部「『社会』と MONDE について」……24
- 宮澤俊義「憲法といふもの」……25
- ダレル・ベリガン「日本の親分たち」……28
- 夢田ユメオ（漫画）「新版 真夏の夜の夢」……29・31・35
- 羽仁説子「社会春秋」……30
- 辰野隆（田代光・挿絵）「妖しムウトンが核——仏蘭西革命史伝の序として——」……32

□デッサン

- 吉田謙吉「文化の配給」……36
- 藤川栄子「べに」……37
- 中野好夫「リュックサック」……37
- 今和次郎「バラック」……38
- 山室民子「婦人社会へ① 青い鳥」……40

□随想

- 米内光政「所懐」……42
- ケネス・コールグローヴ（西村孝次・訳）「アメリカの民主主義について」……43

- 網野菊「田舎と都会」……45
 - V・ヴェレサーエフ（袋一平・訳）「作家について」……46
-
- （無署名）「噂」……42～51
 - 村上知行（近藤日出造・挿絵）「小説 囚はれし周作人」……48
 - G・アルトマン（小松清・訳）「コント 大統領が死んだ」……52

□時評

- 白木正之「財政」……54
 - 平林たい子「労農」……55
 - 小田一郎「文学」……55
 - 水町青磁「スクリーン・ステージ」……56
 - 江口博「ラヂオ音楽」……57
 - 布呂巴嚴太「宣伝」……58
 - 秋山慶幸「スポーツ」……60
-
- T・O 生、編集部（撰）「視聴」……54～58
 - 井上勇「戦争と新語」……58～60
 - 清水崑（カッタ・文）「カリカチュレ」……61
 - コンスタンチン・パウトフスキイ（袋一平・訳）「コント 叢の牧童」……62
 - 仁科芳雄「日録(1) 「さよなら」」……64
 - 【創作】坂口安吾「我鬼」……67
 - （無署名）「劇場「アーニー・パイル」の横顔（グラビア解説）」

- ……71
- びじよん・まうすから「編輯點描」……72~73
 - P・Mの覚え「◇文庫人めも◇木村徳三「人間」編輯長」……72
 - 目次……74
 - S「編輯録」……74
- 第1巻第2号「十一月號」（昭和21年11月1日発行、定価6円）
- 編集人——岡澤一夫
 発行人——岡澤一夫
 印刷人——楠末治
 題簽——會津八一
- グラフィア（※ページ番号なし）
- ますく
 - *伊藤龍雄（画）「尾崎行雄（罌堂）」
 - *相馬雪香（文）「父」
 - 仙波巖（写真）「ストライキ」
 - 仙波巖（写真）「Ballet TROIS FORMES バレー 貝谷八百子」
 - 市浦健（解説）「住宅の大量生産」
-
- 野上彰「童話 月を盗んだ子供」……12
 - 今和次郎「スペクテータ② 新らしい社会が生れてゐる 都市の巻」……14
 - 横田喜三郎「主権抹殺論」……17
 - 石井照久「國家的事業の再検討——経営形態を中心として——」……23
 - （無署名）「噂（うわさ）まつりごと・お金の人」……26
 - 山室民子「婦人社会へ2 女生徒の悩み・先生の悩み」……27
 - 夢田ユメヲ（漫画）「アピラ国 千一夜」……29・31
 - 飯島正「映画美学の運命」……30
 - 高松宮宣仁親王、那須皓、伊藤道郎、久米正雄「座談会 新らたなる意志と」（七月九日・於高輪高松宮邸）……33
 - （無署名）「噂（うわさ）原稿用紙の人」……39
 - 三谷昭「俳壇の動き」……40
 - 本田喜代治（田代光・絵）「仏蘭西革命史抄① 巷の歌声——はじめに——」……41
 - （無署名）「噂（うわさ）芸能界の人」……44
-
- 随想
- 竹越與三郎「土地制度改革の謬見」……45
 - 山口青邨「書齋雜記」……45
 - 河原崎長十郎「芝居随想」……47
 - 鹿地亘「こまぎれ生活」……48
-
- ガンチィヨン（小松清・訳）「コ

- ント 幻の女」……49～51, 54
- 羽仁説子「社会春秋 男の教室
女の教室 青年の二十四時間」
……52～54
 - 佐々木凛一「スウェーデンの電
話」……55

□時評

- 島田晋作「政経 = 財界整理の展望
=」……58
 - 菅井準一「科学 = 新しい芽 =」
……59
 - 栗原一登「演劇 = 地方演劇と学生
演劇 =」……59
 - 江口博「ラヂオ音楽 = 渴いてゐる
ファン =」……60
 - 金丸重嶺「カメラ = 一つの文化財
=」……61
-
- XYZ「シヨオとウエルズ」……
58～61
 - (無署名)「世界の視聴 編輯部
撰」……62
 - 西丸四方「戦犯法廷の精神異状者
——大川周明、田中隆吉、溥儀
——」……64
 - (無署名)「カード遊び(1) ポー
カー競技」……67
 - 【創作】井伏鱒二「夏まつり」
……68
 - 市浦健「住宅の大量生産——グラ
ビヤ解説——」……73

- (無署名)「出版だより」……74
- Y「編集後記」……74

■第1巻第3号 {十二月號} (昭和
21年12月1日発行、定価6円)

編集人——岡澤一夫

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠末治

□グラビヤ (※ページ数表記なし)

- ますく
 - * 伊藤龍雄 (画)「サー・ウイリ
アム・ウエップ、ジョージ・
S・ブルーエット、ジョセフ・
B・キーナン」
 - * マイルス・W・ヴォーン (文)
「東京裁判二つの顔」
 - 「枢軸の夢去りて——その後の
独・伊——」
 - * 安達鶴太郎 (文)「ゲミュート
の国へ」
 - 仙波巖 (写真)、吉本明光 (文)
「ピンアツプ・ヴォイス Xマス・
ふれぜんと (瀧田菊江、大谷冽子、
笠置シヅ子、並木路子)」
 - 松野一夫 (画・文)「五年後のス
タイル」
-
- 豊島与志雄「童話 白い皿」……
12
 - 今野源八郎「スペクテータ③ 交

- 通恐慌とその克服策」……14
- * 村山しげる (画)「乗物地獄」……15
 - * 杉浦幸雄 (画)「国鉄従業員」……16
 - 高橋正雄「物・人・金の失業」……17
 - 佐々木惣一「遙かに大山郁夫君へ」……22
 - 石井照久「国家的事業の再検討(2)——経営形態を中心として——」……24
 - ヴィクター・ボーズン「真珠湾から学べ——十二月八日に寄せて——」……32
 - 安倍能成、犬養健「対談 嘘のない政治」……34
 - 山浦貫一「嵐のあと——昭和廿一年回顧——」……42
 - (無署名)「ゴシップ 噂(うわさ)」……44
 - 本田喜代治(田代光・画)「その前夜——フランス革命史抄——②」……45
 - (無署名)「世界の視聴(世界日報撰)」……50
 - 渡邊一夫「彷徨」……52
 - 山室民子「婦人社会へ3 埋草の幸福」……54
 - エドガー・スノー「潤達なイン
- ヴァチャペル卿——元駐支英国大使クラーク・カー氏の横顔——」……56
 - 丸山孝夫「院外団ものがたり」……62
 - 鳥居二亭「フランス人氣質」……64
 - 佐々木凜一「戦後のローマ」……65
 - 聴濤克巳「闘争日記」……66
 - 【創作】織田作之助(芹澤銈介・挿絵)「死神」……70
 - (無署名)「出版だより」……74
 - Y「編集後記」……74
- 第2巻第1号{一月號(新年號)}
(昭和22年1月1日発行、特価7円)
- 編集人——岡澤一夫
発行人——岡澤一夫
印刷人——楠末治
表紙——木村莊八
目次絵——川端龍子
- グラビヤ(※ページ数表記なし)
- ますく
 - * 藤田嗣治(画)「片山哲」
 - * 片山哲(文)「我が信条」
 - 横井福次郎(絵・文)「東京新名所めぐり」

- 蔣兆和（絵）、村上知行（解説）
「貧しき人々」

- 有澤廣巳「再建方策としてのイン
フレーション」……12～16
- （無署名）「まつりごとの人」
……16
- 水谷長三郎「右か左か」……17
- O・E・ケルガーノフ、向坂逸郎
「対談 社会主義は前進する」
……20
- 川端康成「呉清源その他——日録
——」……26～28
- （無署名）「原稿用紙の人」……
28
- 小倉金之助「あやまり」……29
- 林麟「学生の犯罪、性的犯罪——
学問性と社会性——」……30
- H・ハンドルマン、岩淵辰雄「対
談 静かなる革命」……32～35
- （無署名）「フランス小噺」……
35
- （無署名）「着帽主義／予告無
用」……35
- 久米正雄「らくがき帖（一）」
……36～38
- （無署名）「芸能界の人」……38
- 本田喜代治「——仏蘭西革命史抄
③——思想家の役割」……39
- 世界日報社調査部「世界の視聴」
……44
- 辰巳亥子夫「昭和の源平（一）
——陸海軍抗争の推移——」……
46
- 斎藤桂助（文）、和田義三（絵）
「当代名取組」……49

- 各社特ダネ・コンクール
- 読売社会部「ゼネスト攻勢の内
幕」……52
- 毎日社会部「小平の自白とその物
的証拠」……52～53
- 東京社会部「青春青切符」……53
～54
- 朝日社会部「社会部落ち穂」……
54～55

- 田部重治「高原の冬」……56

- 読者編集の頁「世代の対話」（編：
東京帝大文学部学生有志）
- 来島勇「思想の不信」……57
- 佐久朝雄「敵か味方か」……57～
58
- 竹見和子「婚約と研究と」……58
～60
- 林健太郎「二十代の特権——O君
への手紙——」……58～60
- 堀切幸七「「姿」を見よ」……60
～61
- 小森正子「彼女等の抱負」……61
- 日下実男「無気力にして無力」
……61

- 木村荘八「エプロンの生活」……

- 62
- 【創作】井伏鱒二「夏まつり」……63
 - ジャン・ポール・サルトル、堀口大樹（訳）「小説 分別盛り」……69
 - （無署名）「編集日記」……74
- 第2巻第2号 {二月號} (昭和22年2月1日発行、定価8円)
- 編集人——岡澤一夫
 発行人——岡澤一夫
 印刷人——楠末治
 表紙——高野三三男
 目次絵——川端龍子
- グラビヤ（※ページ数表記なし）
- ますく
 - *（無署名・絵）「永井荷風」
 - *久保田万太郎（句・文）「永井荷風」
 - 歪められたエロス（フランス／イギリス）
 - *鈴木信太郎「『サチリク詩華集』について」
 - *渡邊一夫「Les Cent Nouvelles Nouvelles（新百話）」
 - *「解説」
 - *中野好夫「歪められたエロス」
 - 鈴木茂三郎「貿易再開と日本経済」……8～11
 - （無署名）「噂 芸能界限」……11
 - 蠟山政道「日本政党の再検討」……12
 - 楊璟公「アメリカのラジオ」……15
 - 編集部、来栖三郎「最後に笑ふもの——来栖三郎氏にきく——」……16
 - 渋谷秀雄「アメリカの大劇場」……22～24
 - 菅野忠恕（漫画）「捕鯨船員帰る」……24
 - 樽井近義「今日のベルリン」……25
 - 藤原咲平「生みの悩み」……26～27
 - （無署名）「フランス小噺」……26～27
 - 本田喜代治「フランス革命史抄④前奏曲」……28～32
 - （無署名）「噂 まつりごとの人」……32
 - 河盛好蔵「音楽」……33
 - 辰巳亥子夫「昭和の源平（2）陸海抗争の推移」……34
 - 世界日報社（選）「世界の視聴」……38
 - 中野五郎「アメリカ映画論 日本

- 映画の民主化のために」……40～45
- (無署名)「新渡世術——ダンスの上手な踊り方」……40
 - (無署名)「新渡世術——富くじばなし」……41
 - (無署名)「新渡世術——タバコにも困らぬ」……42
 - (無署名)「新渡世術——鉄道利用法」……43
-
- 社会の顔
- 青野季吉「梅原龍三郎」……46
 - 新居格「森戸辰男君のこと」……47
 - 平林たい子「宮本百合子さん」……48
-
- 井上友一郎「映画」……49
-
- 読者編集「婦人文化運動の今日と明日」(編：婦人民主クラブ)
- 佐藤さち子「地方におけるクラブ」……50～53
 - 厚木たか「婦人民主クラブ」……50～53
-
- 横山泰三(漫画)「まんが」……53
 - 久米正雄「らくがき帖(二)」……54
 - 中澤不二雄「スポーツ」……56
 - 檜橋渡「滄浪閣日記」……57
 - 【創作】村山知義「母の愛」……

- 60
- (無署名)「編集日記」……70

■第2巻第3号 {三月號} (昭和22年3月1日発行、特価12円)

編集人——岡澤一夫

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠末治

表紙・目次絵——荻須高德

□グラビヤ(※ページ数表記なし)

- ますく
 - * (写真)「Jean-Paul Sartre」
 - * (無署名)「J・P・サルトル略歴」
 - フランス写真だより FRANCE PHOTO NEWS (フランス通信社特約)
 - 川上三太郎(川柳)、仙波巖(撮影)、和田義三(漫画)「春宵一刻」
-
- 羽仁五郎「学窓より社会え出で立つひとびとに」……12
 - 石濱知行「旅の手帖から 千億の春」……15
 - 田中英光「美しき政治」……18
 - 本田喜代治「——仏蘭西革命史抄⑤——身分議会」……22～26
 - (無署名)「新渡世術 役得いろいろ集」……26

□社会の顔

- 堀真琴「南原繁」……27
- 北原武夫「坂口安吾」……28～29
- 吉本明光「河西三省」……29～30

- 窪田空穂「霜ぐもり」……30
- 佐藤垢石「時評 釣り」……31
- 世界日報社選「世界の視聴」……32
- 内田百閒、久保田万太郎、久米正雄、小糸源太郎、宮川曼魚「座談会 世間人情 今昔ばなし」……33
- 白木正之「政治時評 連立内閣の性格」……41
- 久米正雄「らくがき帖」……42
- 横田喜三郎「国語国字問題に関する随想」……44～45
- 水原秋桜子（句）「梅」……45
- 杉浦正時（漫画）「闘争委員長家に帰る」……45
- 辰巳亥子夫「昭和の源平（3） 陸海抗争の推移」……46
- 高野三三男「サムソンの妓」……50

□読者編集の頁「愛の運動」（編：全日本教員組合協議会）

- 岩間正男「教員組合運動」……52～55
- 岩間正男「学童給食運動日々」……55

- くどうちよ「闘ひとつた学童給食」……56
- 長文連「父兄会の性格と活動」……57

- 中野五郎「The Crime of The Century リンドバーグ事件（1）★アメリカを震撼した世紀の犯罪物語★」……58
- 向井一男「時評 囲碁」……66
- 舟橋聖一「時評 演劇」……67
- 【創作】上林暁「奇縁」……68
- （無署名）「編集日記」……74

■第2巻第4号 {4.5月号}（昭和22年5月1日発行、特価20円）

編集人——岡澤一夫

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠末治

表紙——赤松俊子……※第2巻第5号 p.13. にて「向井潤吉氏揮筆のもの」と訂正あり。

目次絵：久保守

□グラビア（※ページ番号なし）

- 「ますく」
- *（無署名）「マッカーサー元帥」
- （無署名、フランス通信社提供）「第四フランス共和国のために新大統領ヴァンサン・オリオール氏の横顔」

- (無署名)「歪められたエロス
その二」
*舟橋聖一「解説」
*奥野信太郎「金瓶梅について」
- (無署名、フランス通信社提供)
「フランス新着漫画」

- 加藤勘十「経済復興会議と労働組
合運動の将来」……2
- 木村禧八郎「経済危機と国民生
活」……6
- 大内兵衛「櫛田君とその犬」……
10
- 小野堀三「妻なればこそ」……11
- 阿部眞之助「教授グループ論」
……12～15
- 松本淳三「民族の詩 花水川」
……14
- 石川啄木「日録 幸徳秋水事件の
後 (未発表)」……16
- 虎の門人「高橋と田中」……20
- 清水崑「エイプリル・フル 嘘
くらべ」……22
- エリノア・ルーズベルト「ソヴェ
ト人見たまゝ」……24～27
- 栗林一石路「メーデーのおもい
で」……27～28
- 本田喜代治「——フランス革命史
抄⑥——バスチユの襲撃」……29
～33
- 永井保 (漫画)「世相二景」……

31

- 小泉紫郎 (漫画)「無い無い輸
送」……33
- (無署名)「世界の視聽 文化人
の周囲 (世界日報撰)」……34
- 久米正雄「らくがき帖」……36

□時評

- 岩上順一「「男女同権」について
(文学時評)」……38
- 高峯一愚「台北高等学校の終焉
(教育時評)」……38

□誌上討論

- 婦人民主クラブ常任委員会「婦人
民主クラブの指導性——平林たい
子さんの批判に対して——」……
40
- 平林たい子「今一度明にする」
……40

- 【創作】丹羽文雄 (藤川榮子・
絵)「未亡人」……41
- 和田義三 (漫画)「買出し」……
47
- (無署名)「出版だより」……48
- (無署名)「編集後記」……48

■第2巻第5号 {六月號} (昭和22
年6月1日発行、定価15円)
編集人——岡澤一夫
発行人——岡澤一夫
印刷人——楠末治

表紙——赤松俊子

□グラフィア（※ページ番号なし）

- 「ますく」
 - *（画）「野坂参三」
 - *野坂参三「我が信条」
 - （無署名）「人民的解放 中国の木刻」
 - *田村宗太郎「中国の木彫」
-
- 中山伊知郎「経済危機と経済再建」……1

□社会の顔

- 高松棟一郎「清瀬一郎」……5
 - 小田切秀雄「中野重治——断片——」……6
-
- （無署名）「科学界ニュース・フラッシュ（世界日報社撰）」……7
 - 岩淵辰雄、向坂逸郎、青野季吉「（鼎談）公職追放の課題」……8
 - 久米正雄「らくがき帖」……14
 - 中野五郎「THE CRIME OF THE CENTURY (2) リンドバーグ事件」……16

□読者編集の頁——「再建の土壌」

（編：農林省職員労働組合）

- 中野和仁「農地改革と農村の民主化」……21
- 田川亮三「遅配（随想）」……21
- 上瀧ミノト「共同化、機械化——われらは何をなすべきか——」

……23

- 大原マサ子「二・一闘争と女性」……23
 - 佐藤義彌「食糧政策批判」……25
-
- 【創作】室生犀星（赤松俊子・画）「人が悪いか」……26～32
 - 小川哲男（画）「新憲法公布」……29

■第2巻第6号 {七月號} (昭和22年7月1日発行、定価15円)

編集人——岡澤一夫

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠末治

表紙——内田巖

□グラフィア（※ページ番号なし）

- 「ますく」
 - *（無署名）「浮び出た勤労大衆の公僕（総理大臣 片山哲、国務大臣 西尾末広、商工大臣 水谷長三郎、文部大臣 森戸辰男、衆議院議長 松岡駒吉、農林大臣 平野力三）」
 - （無署名）「裁かれる極東の歴史 〃世界の平和と人道のために、——極東国際軍事裁判所——」
-
- 藤林敬三「労働教育の実際」……5～8
 - 春山行夫「風俗時評 アイデアの

- 問題」……8
- 土屋清「生活給か能率給か——最低生活水準と賃金形態——」……9
 - 向井潤吉「美術時評——洋画を主として——」……13
 - 海野稔「片山内閣の難関」……14
 - 中野重治、新居格「(対談)文化人の闘い——新しき社会を創る——」……16
 - キク・ヤマダ「思い出のヴァレリイ」……21~23
 - 木下恵介「映画時評 映画界雑感」……21~23
 - 本田喜代治「——フランス革命史抄(7)——「大恐怖」から八月四日の夜」……24
 - 【創作】井上友一郎「今宵逢ふ人」……29
- 第2巻第7号「八・九月号」(昭和22年9月1日発行、定価20円)
- 編集人——岡澤一夫
 発行人——岡澤一夫
 印刷人——楠末治
 表紙——高澤圭一
 目次カット——鳥海青児
- 志賀直哉「若き世代に懇ふ 日本ペンクラブ講演会挨拶」……2~4
 - 高橋泰藏「物価体系と経済の規模——経済緊急対策の理論と問題——」……4
 - F・R・スコット「平和と保障への道」……8~12
 - 吾妻光俊、佐多稲子「対談 封建的家族制度の打破——改正民法と家族制度——」……11
 - 田部井健次「大山郁夫とその友人」……18~20
 - 風間新人(絵)「賭をした男」……20
 - 本田喜代治「フランス革命史抄(8) 人権・市民権の宣言」……21
 - (無署名)「社告——本誌の再発足にあたって——」……25
 - 「誌上自由討議 (課題) A 食糧危機をどうするか/B インフレはどうか 読売新聞/日本経済新聞/朝日新聞/毎日新聞 各社経済部」……26
 - 鈴木信太郎「彫蟲秘戯」……30~31
 - P・Q・R「防犯メモ 闇からヤミへ」……30~31
-
- 読者編集の頁——「愛と犠牲との生活」(編：新生活運動連盟)
- 森戸辰男(文部大臣)「新生活運動の歴史的要請」……32~33
 - 江木武彦「連盟の性格」……32~

- 35
- 金子洋文「民主革命の達成」……34
 - 山本千枝子「新生活運動と協同組合」……34
 - 金澤甚衛「うるわしい協力」……35
-
- 中野五郎「リンドバーグ事件——終——(THE CRIME OF THE CENTURY)」……36
 - 【創作】田村泰次郎「銀座裏」……42～48
 - (無署名)「防犯メモ スリの世界」……45
 - P・Q・R「防犯メモ 青春犯罪」……47
 - (無署名)「編集後記」……48
- 第2巻第8号 {十月号} (昭和22年10月1日発行、定価18円)
- 編集人——大森直道
 発行人——岡澤一夫
 印刷人——楠末治
 表紙——鳥海青児
- 今中次麿「日本人と民族意識」……2
 - 高橋正雄「貿易再開と日本経済」……9
 - 広津和郎「公僕か公撲か」……15
 - ヘツセル・ティルトマン、松岡駒吉「——対談—— 英国労働党から日本社会党へ」……20
 - 白木正之「社会党危機の実体——西尾・平野対立の真相——」……26
 - 福沢一郎(絵・文)「闇と廢墟」……30
 - 渡邊一夫「「凱旋門」読後——ポイメルからラヴィックへ——」……32
 - 川端康成「哀愁」……36
 - 松本治一郎「闘争三十年——水平社運動の思い出——」……41
-
- 社会の窓
- 佐藤信衛「まだ敗戦を知らない」……45
 - 今野武雄「言葉と科学」……48
 - 阿部歌子「造脛手術」……50
-
- 【創作】正宗白鳥「唯一の希望」……52
 - 編集部「編集後記」……64
- 第2巻第9号 {11月号} (昭和22年11月1日発行、定価20円)
- 編集人——大森直道
 発行人——岡澤一夫
 印刷人——楠末治
- 木村龜二「姦通罪の問題」……2

- 山田雄三「価値判断の形成過程」
……11
- 岩淵辰雄「行政機構の改革」……
17
- フェルナン・フィゼヌ、根岸國
孝訳「占領下のドイツ」……20
- 武者小路実篤（絵・文）「雑草を
見ての妄想」……30
- 木村禧八郎「戦後財政失政論」
……32

□社会の窓

- 武見太郎「診療簿余録」……38
- 浦松佐美太郎「山の世界」……40
- 坂西志保「婦人の労働」……42
- 小松清「フランス政治の途」……
44
- 【創作】坂口安吾「決闘」……52

■第2巻第10号 {12月号} (昭和22
年12月1日発行、定価23円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠 末治

- 清水幾太郎「社会変革と知識人」
……2
- 中山伊知郎「マルクスとシュム
ペーター」……8
- 中野好夫「飜訳解禁」……15
- 八杉龍一「生物における歴史」

- ……20
- 原彪「政治のふくみ」……28
- フェルナン・フィゼヌ、根岸國
孝（訳）「占領下のドイツ」……
30
- バルザック（小西茂也・訳）「懺
悔ばなし」……36

□社会の窓

- 内山完造「法幣インフレ」……38
- 海後宗臣「学校解放の不安」……
39
- 岩上順一「うらとおもてと」……
41
- 林要「農園雑記」……43
- シドニイ・ビー・ホイップル（磯
部佑一郎・訳）「新聞と社会正
義」……45
- 岡田謙三「田園生活」……48
- 加茂儀一「フランス革命前夜」
……50
- 【創作】丹羽文雄「父の記憶」
……56

■第3巻第1号 {1月号} (昭和23
年1月1日発行、定価28円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠 末治

表紙・カット——伊藤廉

- 矢内原忠雄「国際平和と日本人」……2
- 小倉金之助「ファッション治下の数学教育」……8
- 田中耕太郎「政治と倫理」……14
- 鈴木茂三郎「経済再建と社会主義」……20
- 「社会」編集部「☆「社会」新人評論募集☆」……27
- 横光利一、岸田国土、川端康成、今日出海「作家の独白——（座談会）——」……28

□世界と日本《アメリカ》

- ピーター・カリッシヤ「日本人に忠告する」……38
- 鈴木文史朗「今見るアメリカの真姿」……40
- サトウ・ハチロー（内田巖・絵）「東京風俗抄」……46

□★学界展望★(1)【経済学】

- 土屋清「最近の経済学界」……50
- 阿部眞之助（清水崑・絵）「1948年の顔」……53
- 駒井卓「生物学者としての天皇」……58
- 【創作】深田久彌「詩人の妻」……66
- （無署名）「編集後記」……80

■第3巻第2号 {2月號}（昭和23年2月1日発行、定価20円）

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠 末治

カット——伊藤廉、中山巍、井上長三郎、近藤晴彦

- 有澤廣巳「インフレーションと賃銀——ドイツの場合と日本の場合——」……2
- 尾形昭二「国際日本への一判断」……11

□★世界と日本《イギリス》★

- 蠟山政道「(政治) 英国の国際的地位」……17
- 脇村義太郎「(経済) イギリス経済の危機」……23
- 赤岩榮「唯物史観と宗教」……27

□★学界展望★(2)【歴史学】

- 林健太郎「新しい公式主義の危険」……33
- 小宮義孝「徐氏のことなど」……36
- 坂口允彦「チエスと日本将棋」……43
- 【創作】深田久彌「詩人の妻」……46
- 「社会」編集部「☆「社会」新人評論募集☆」……56

■第3巻第3号 {3月号} (昭和23

年3月1日発行、定価20円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——楠 末治

カット——荻須高德、伊藤廉、中山
魏、近藤晴彦

・大河内一男「産業合理化と過剰人
員」……2

・土屋喬雄「インフレ史上の都市と
農村」……9

□世界と日本〔中華民国〕

・豊島與志雄「新たな世界主義——
中日提携について——」……14

・内山完造「右の目左の目」……19

・村松恒一郎「ヘンリー・フォード
とその産業哲学」……23

・正宗白鳥「新聞小説今昔」……32

□★学界展望★(3)〔社会学〕

・日高六郎「社会学」……36

・川添隆行「税」……39

・今日出海「横光さんの思い出」
……42

・【創作】芹澤光治良「死者との對
話または啞の娘」……46

■第3巻第4号 {4月号} (昭和23

年4月1日発行、定価25円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原 喜平

表紙絵——荻須高德

カット——伊藤廉、近藤晴彦、井上
長三郎

・高桑純夫「死の把握と主体性」
……2

・遊部久藏「為替インフレ論の本質
★ 黒田久太氏の為替インフレ論
批判の批判」……10

・岩淵辰雄「現代政党論」……16

・志賀直哉、廣津和郎、川端康成
「文藝鼎談(於・熱海緑風閣)」
……21

□世界と日本〔ソヴェト〕

・西澤富夫「ソヴェトの経済学界
——ヴァルガ問題について——」
……36

・田中實「ソヴェト科学の一側面
——その大衆的性格について
——」……40

・なかの・しげはる「伊丹万作につ
いて」……44

・【創作】伊藤整「雪の夜語り」
……52

■第3巻第5号 {5月号} (昭和23

年5月1日発行、定価30円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原 喜平

カット——高橋忠彌、伊藤廉、井上
長三郎

- 豊崎稔「外資導入とインフレーション——経済再建論の検討——」……2
- 近藤洋逸「数学と社会——近代数学史の一側面——」……9
- 田中美知太郎「ベシミズムについて」……16
- 小口偉一「社会変革と宗教」……22
- エドモンド・ブランデン（西村孝次・訳）「東京随想」……28

□学界展望〔Ⅳ〕

- 中村哲「政治学」……31
- 竹田俊雄「浮浪児の心理」……34
- 橋本英吉「“富士山頂”余聞」……40
- 片山敏彦「孤独と孤立」……42
- ピエール・ドゥブレ「三十八度緯線」……48
- 【創作】上林曉「暮夜」……51
- E・I「☆後記☆」……64

■第3巻第6号 {六月号}（昭和23年6月1日発行、定価30円）

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原 喜平

カット——近藤晴彦、井上長三郎、
高橋忠彌

- 大内力「農民運動の課題」……2
- 信夫清三郎「労働戦線と職員層」……12
- 向坂逸郎「現代精神のある断面」……18

□社会の顔

- 河盛好藏「(人物評論) 安倍能成・新居格・出隆」……24
- 「子規未発表書簡（解説）高濱虚子」……28
- 中野重治・中島健藏・高見順・渡邊一夫「座談会 日本の現実と作家の世界」……31
- 武市健人「ニヒリズムの形態——大熊信行氏の批評への答——」……50
- 【創作】井伏鱒二「復員者の噂」……56

■第3巻第7号 {七月号}（昭和23年7月1日発行、定価30円）

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原 喜平

表紙絵——猪熊弦一郎

カット——鐵指公藏、井上長三郎、
近藤晴彦、角弘

- 迫間眞治郎「資本主義の計画化へ」……2

□特集 土建産業の構造

- 宮武謹一「土建産業合理化の諸問題」……12
- 幼方直吉「労働力のアジア的形態——主として把头制度について——」……21
- 大内兵衛「美濃部先生の憶い出」……26

□★社会の顔★

- 河盛好藏「中野好夫・桑原武夫・土井虎賀壽」……29
- 杉浦明平「えろちしずむの流行」……33
- 金子光晴「焼土の歌」……38
- 小林英三郎「社会的人間の形成〔当選論文〕——日本再建の課題——」……41
- 「社会」編集部「☆「社会」新人評論審査発表☆」……52
- 【創作】徳永直「にがい唾」……53

■第3巻第8号 {八月号} (昭和23年8月1日発行、定価35円)
編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原 喜平

目次カット——荻須高德

カット——近藤晴彦、井上長三郎、
角浩

- 武谷三男「原子力とマルキシズム」……2
- 宮澤俊義「天皇退位論」……9
- 神山茂夫、瓜生忠夫、鶴岡信三、渡邊三知夫、(司会)平野義太郎「座談会 日本民主主義革命の現段階」……16
- 青野季吉「私の社会人交友録——じつは非交友知人録——」……36

□人物評論

- 河盛好藏「宮本百合子・宇野千代・林芙美子」……44
- 山之口獏「農村風景 闇と(公)」……48
- 三好達治「震災記」……50
- 【創作】室生犀星「うんなん山」……53

■第3巻第9号 {九月号} (昭和23年9月1日発行、定価35円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原喜平

カット——井上長三郎

- 原田鋼「現代政治に於ける保守と反動」……2
- 川崎巳三郎「中間安定策のねらうもの」……10
- 末川博「自由の進展」……19
- 長島又男「政局の進展と労働運動」……28
- 青野季吉「私の社会人交友録——じつは非交友知人録——」……33
- ラファエルレムキン（西村孝次訳）「種族殺戮へのたたかい」……38
- 三好十郎「現代的症状」……40

□☆社会の顔☆

- 河盛好藏「清水幾太郎 羽仁五郎 林達夫」……48
- 【創作】丹羽文雄「雨の多い時」……53

■第3巻第10号 {十月号} (昭和23

年10月1日発行、定価40円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原喜平

カット——小泉秀松、高橋忠彌

□特集 平和維持と日本の条件

- 信夫清三郎「★労働組合運動の展開」……2
- 堀真琴「★八・一五以後における

社会意識の進展」……8

- 守屋典郎「★ファシズムの社会的基盤」……14

- 吉村正「米英官僚論」……24

□我が毒舌

- 武谷三男「毒舌について」……30
- 武谷三男「宗教的ケンソンと科学的ケンソン」……30
- G「菓手に喰い飽きた小僧」……31
- 富田八郎太「社会党の解散論をめぐって」……33

- 松田智雄「非政治的精神の政治的役割——ドイツ思潮批判——」……34

□人物評論 知的群像

- 瓜生忠夫「丸山眞男 大塚久雄 眞下信一」……43
- なかの・しげはる「地震雑筆」……48
- 【創作】田宮虎彦「桃花源」……52

■第3巻第11号 {十一月号} (昭和23年11月1日発行、定価40円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原喜平

- 高桑純夫「二つの自由——自由の

- 形式と実質について——」……2
- 鈴木武雄「金融制度の民主的改革」……10

□人物評論 知的群像

- 瓜生忠夫「川島武宜 内田義彦 高桑純夫」……19

- 飯塚浩二「社会倫理の転換」……24

□我が毒舌

- 相原茂「停電スト」……32
- 内田巖「生活に於ける感覚的形式主義」……33

- 小田切秀雄「帰国拒否」……34

- 瀧井孝作、井伏鱒二、上林暁、川端康成「文芸閑談（座談会）」……36

- 【創作】井上友一郎「罪」……53

■第3巻第12号 {十二月号} (昭和23年12月1日発行、定価45円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原喜平

- 中西功「世界平和と対日講和会議」……2

- 福武直「我国農村社会の二類型——同族結合と講組結合——」……16

- 眞下信一、飯塚浩二、武谷三男、

- 中村哲、小口偉一「座談会 戦争責任の道徳的糾弾——東京裁判の終結にあたって——」……24

□我が毒舌

- 小田切秀雄「ひどい新聞・ひどい連載小説」……40

- (無署名)「総合雑誌」……41

- 花田清輝「罪と罰」……42

□知的群像（人物評論）

- 瓜生忠夫「中村哲 武谷三男 飯塚浩二」……48

- 【創作】檀一雄「春に帰る」……52

■第4巻第1号 {新年号} (昭和24年1月1日発行、定価55円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原喜平

- 平野義太郎「国家独占資本主義の腐敗面——昭和電工疑獄はどうして起つたか——」……1

- 舟橋尚道「賃金 最近における日本資本主義の賃金問題」……10

□我が毒舌

- (無署名)「敬老思想について」……22

- 楼井恒次「大学教授と云うもの」……22

- 中村哲「偽作横行」……23
- 株式会社鎌倉文庫「社告」……24
- 向坂逸郎「紀年の時計」……25
- 高見順「飽きない木」……30

□人物評論 ★社会の顔★

- 今日出海「檣橋渡 田中耕太郎 白洲次郎」……32
- 川端康成「判決の記」……36
- 【創作】中山義秀「晩秋記」……40
- 【創作】所武雄「ナポレオン一家」……60
- 【創作】加藤周一「女と蛇と山芋の話」……73
- 【創作】耕治人「門松」……81
- (無署名)「編集後記」……96

■第4巻第2号 {二月號} (昭和24年2月1日発行、定価55円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——原喜平

- 鈴木安蔵「日本民主化の停滞と条件——鈴木東民、蠟山政道氏らの所説に寄せて——」……1
- エドガア・スノー(土居通夫・訳)「戦後アジアの動向 青年の支配する国ビルマ(本誌独占)」……14

- 平田哲郎「大新聞論」……25

□社会の顔

- 今日出海「石坂洋次郎 市川海老蔵」……28
- 木村禎八郎、中西功、中村哲、白木正之「ボス政治を衝く(座談会)」……32
- 渡邊一夫「レコードを整理しながらの妄想」……52

□我が毒舌

- 青野季吉「シベリヤの日」……56
- 青野季吉「社会党の常識テスト」……57
- 千村裕二「プロテスタンティズムのレーズン・デートル」……58
- 芳賀八郎「スターリンのひげ」……59
- 芳賀八郎「モノクルの紳士たち」……60
- 内田巖「入党談義」……61
- 後藤真二「雑巾の歌」……64
- 【創作】北條誠「江戸屋本店」……65
- (無署名)「編集後記」……96

■第4巻第3号 {三月號} (昭和24年3月1日発行、定価60円)

編集人——大森直道

発行人——岡澤一夫

印刷人——長谷川隆士

- 羽仁五郎「基本的人権について」……1
- 箱崎満寿雄、阪本楠彦「共同研究 革命的段階における労農提携」……10
- 高桑純夫、戒能通孝、宮武謹一、中島健蔵「座談会 学界の旧態を衝く」……21
- 阿部眞之助「民自党対共産党」……38

- 我が毒舌
- 大西克和「ドイツ観念論の再興」……42

- ★社会の顔★
- 今日出海「吉田茂 辰野隆 清水崑」……44

- 【創作】寺崎浩「権力」……48
- 沈承怡（井上勇・訳）「直接寄稿 鳩の町」……58～95
- 井上勇「著者紹介」……59
- （無署名）「編集後記」……96

- 第4巻第4号 {四月號}（昭和24年4月1日発行、定価70円）
- 編集人——大森直道
- 発行人——岡澤一夫
- 印刷人——長谷川隆士

- 野坂参三（近藤日出造・似顔絵）「新しい中国と世界の将来」……1
- 武谷三男「科学者と国際社会」……4
- バーナード・タウラー「★米国には何故労働党が存在しないか——労働組合と政治活動——」……9
- 岡倉古志郎「非日委員会の「非日」性」……12
- （無署名）「社会の足音 税」……19
- 丹羽文雄「文学者と政治」……20
- J・P・Y「【政界時評】共産党を動かす人々」……24
- （無署名）「社会の足音 ユネスコ」……31
- 菱山辰一（横山泰三・絵）「ルポルタージュ 兜町」……32
- （無署名）「社会の足音 ラジオ」……55
- 大西克和「壁画と政治」……56
- M・N・Y「【財界時評】外資はどう入るか」……60
- （無署名）「社会の足音 裁判」……67
- 松本正雄「「事件」を作るもの——おもしろ横濱事件——秘められたる記事」……68
- 井上長三郎（絵・文）「ルポルタージュ 東京のデッド・エンド」……74
- H・Y・T「【新聞時評】読売新聞

- 論」……78
- (無署名)「社会の足音 出版」……83
 - 安田徳太郎「イデオロギーとしての服装」……84
 - (無署名)「社会の足音 映画」……91
 - 今日出海(近藤日出造・絵)「人物評論的饒舌——日野原節三・池田勇人——」……92
 - 正宗白鳥「内村鑑三(第一回)——如何に生くべきか——」……96
 - 壺井繁治「眼」……116
 - 【創作】駒田信二「海潮」……118
- 第4巻第5号(五月号)(昭和24年5月1日発行、定価70円)
- 編集人——大森直道
 発行人——岡澤一夫
 印刷人——長谷川隆士
- 平野義太郎「戦争の原因と平和の基礎」……1
 - (無署名)「社会の足音 輸出貿易」……7
 - 風早八十二「失業対策のない首切」……8
 - 大竹正三郎「近代日本人民弾圧史——日本内政の歴史的特質——」……14
 - (無署名)「社会の足音 博覧会」……29
 - 国分一太郎「国定「民主主義」の出現 秘められたる記事」……30
 - N・N・Y「【財界時評】財政は最大のペテンである」……36
 - 三雲祥之助(絵・文)「ステージ・ドアー ★社会探訪★」……42
 - 西貢太郎「ルポルタージュ 警視庁」……46
 - (無署名)「社会の足音 ニュー・ルック」……57
 - J・P・Y「【政界時評】吉田内閣と労働運動」……58
 - 飛車金八「人物評論 大学教授と俳優 大内兵衛・河原崎長十郎」……65
 - ヘッセル・テイルトマン「〈特別寄稿〉上海現地報告 危機の都」……72
 - K・Y・E「【出版時評】岩波文化論」……76
 - (無署名)「社会の足音 競馬」……83
- ★《ゾルゲ事件》主要人物プロフィール★
- 益田豊彦「人間尾崎」……84

- 中野五郎「ゾルゲとヴァケリッ
チ」……86

- 許斐仁「★アメリカの黒人★」
……91
- 正宗白鳥「内村鑑三（第二回）
——如何に生くべきか——」……
94
- 河盛好蔵「【文芸時評】文学診療
簿」……112
- 【創作】新田潤「一時代の片隅」
……117
- （無署名）「★編集後記★」……
128

- （付）『社会』創作欄掲載作品一覧

- 【凡例】 卷(号)：作家名「作品名」

- 1（1）：坂口安吾「我鬼」
- 1（2）：井伏鱒二「夏まつり」
- 1（3）：織田作之助「死神」
- 2（1）：井伏鱒二「夏まつり」
（続）
- 2（2）：村山知義「母の愛」
- 2（3）：上林暁「奇縁」
- 2（4）：丹羽文雄「未亡人」
- 2（5）：室生犀星「人が悪いか」
- 2（6）：井上友一郎「今宵逢ふ人」
- 2（7）：田村泰次郎「銀座裏」
- 2（8）：正宗白鳥「唯一の希望」
- 2（9）：坂口安吾「決闘」
- 2（10）：丹羽文雄「父の記憶」
- 3（1）：深田久彌「詩人の妻」
- 3（2）：深田久彌「詩人の妻」
（続）
- 3（3）：芹澤光治良「死者との對
話または啞の娘」
- 3（4）：伊藤整「雪の夜語り」
- 3（5）：上林暁「暮夜」
- 3（6）：井伏鱒二「復員者の噂」
- 3（7）：徳永直「にがい唾」
- 3（8）：室生犀星「うんなん山」
- 3（9）：丹羽文雄「雨の多い時」
- 3（10）：田宮虎彦「桃花源」
- 3（11）：井上友一郎「罪」
- 3（12）：檀一雄「春に帰る」
- 4（1）：中山義秀「晩秋記」、所
武雄「ナポレオン一家」、
加藤周一「女と蛇と山芋
の話」、耕治人「門松」
- 4（2）：北條誠「江戸屋本店」
- 4（3）：寺崎浩「権力」
- 4（4）：駒田信二「海潮」
- 4（5）：新田潤「一時代の片隅」

4. 『社会』執筆者名索引（五十音順）

※無署名および編集部名ものは除外した。

※姓の読み方が確定せず不詳の人物については、末尾に記載した。

【凡例】 執筆者・執筆機関名 卷(号)

■ア		飯塚浩二	3(11)、3(12)
相原茂	3(11)	石井照久	1(2)、1(3)
青野季吉	2(2)、2(5)、3(8)、3(9)、4(2)	石川年	1(1)
赤岩榮	3(2)	石川啄木	2(4)
秋山慶幸	1(1)	石濱知行	2(3)
朝日(朝日新聞)社会部	2(1)	市浦健	1(2)
遊部久藏	3(4)	伊藤整	3(4)
安達鶴太郎	1(3)	伊藤龍雄	1(2)、1(3)
厚木たか	2(2)	伊藤道郎	1(2)
吾妻光俊	2(7)	犬養健	1(3)
阿部歌子	2(8)	井上勇	1(1)、4(3)
阿部眞之助	2(4)、3(1)、4(3)	井上長三郎	4(4)
安倍能成	1(3)	井上友一郎	2(2)、2(6)、3(11)
天野貞祐	1(1)	伊原宇三郎	1(1)
網野菊	1(1)	井伏鱒二	1(2)、2(1)、3(6)、3(11)
有澤廣巳	2(1)、3(2)		(11)
G・アルトマン	1(1)	今中次麿	2(8)
■イ		岩上順一	2(4)、2(10)
E・I	3(5)	岩淵辰雄	2(1)、2(5)、2(9)、3(4)
飯島正	1(2)	岩間正男	2(3)

■ウ

- V・ヴェレサーエフ 1(1)
 マイルス・W・ヴォーン 1(3)
 内田巖 3(11)、4(2)
 内田百閒 2(3)
 内山完造 2(10)、3(3)
 幼方直吉 3(7)
 浦松佐美太郎 2(9)
 瓜生忠夫 3(8)、3(10)、3(11)、
 3(12)
 海野稔 2(6)
- 岡田謙三 2(10)
 尾形昭二 3(2)
 小川哲男 2(5)
 小川未明 1(1)
 小口偉一 3(5)、3(12)
 奥野信太郎 2(4)
 小倉金之助 2(1)、3(1)
 小田一郎 1(1)
 小田切秀雄 2(5)、3(11)、3(12)
 織田作之助 1(3)
 小野堀三 2(4)

■エ

- H・Y・T 4(4)
 江木武彦 2(7)
 江口博 1(1)、1(2)
 S 1(1)
 XYZ 1(2)
 N・N・Y 4(5)
 M・N・Y 4(4)

■オ

- 大内兵衛 2(4)、3(7)
 大内力 3(6)
 大河内一男 1(1)、3(3)
 大竹正三郎 4(5)
 大竹省二 1(1)
 大西克和 4(3)、4(4)
 大原マサ子 2(5)
 岡倉古志郎 4(4)

■カ

- 海後宗臣 2(10)
 戒能通孝 4(3)
 風早八十二 4(5)
 風間新人 2(7)
 鹿地亘 1(2)
 片山哲 2(1)
 片山敏彦 3(5)
 加藤勘十 2(4)
 加藤周一 4(1)
 金澤甚衛 2(7)
 金丸重嶺 1(2)
 金子光晴 3(7)
 金子洋文 2(7)
 株式会社鎌倉文庫 4(1)
 神山茂夫 3(8)
 加茂儀一 2(10)
 ピーター・カリッシャ 3(1)

- | | | | |
|---------|--------------------------------|-------------|-------------------------------|
| B・GOWER | 1(1) | O・E・クルガーノフ | 2(1) |
| 川上三太郎 | 2(3) | 来栖三郎 | 2(2) |
| 川崎巳三郎 | 3(9) | | |
| 川添隆行 | 3(3) | ■ケ | |
| 川端康成 | 2(1)、2(8)、3(1)、3(4)、3(11)、4(1) | K・Y・E | 4(5) |
| 河盛好蔵 | 2(2)、3(6)、3(7)、3(8)、3(9)、4(5) | ■コ | |
| 河原崎長十郎 | 1(2) | 小泉紫郎 | 2(4) |
| ガンチィヨン | 1(2) | 小糸源太郎 | 2(3) |
| 上林暁 | 2(3)、3(5)、3(11) | 高野三三男 | 2(3) |
| | | 耕治人 | 4(1) |
| | | ケネス・コールグローヴ | 1(1) |
| ■キ | | 国分一太郎 | 4(5) |
| 聴濤克巳 | 1(3) | 後藤眞二 | 4(2) |
| 岸田國士 | 3(1) | 許斐仁 | 4(5) |
| 北原武夫 | 2(3) | 小林英三郎 | 3(7) |
| 木下恵介 | 2(6) | 駒井卓 | 3(1) |
| 木村亀二 | 2(9) | 駒田信二 | 4(4) |
| 木村禧八郎 | 2(4)、2(9)、4(2) | 小松清 | 2(9) |
| 木村莊八 | 2(1) | 小宮義孝 | 3(2) |
| | | 小森正子 | 2(1) |
| | | 近藤洋逸 | 3(5) |
| ■ク | | 今野源八郎 | 1(3) |
| 日下実男 | 2(1) | 今野武雄 | 2(8) |
| くどうちよ | 2(3) | 今日出海 | 3(1)、3(3)、4(1)、4(2)、4(3)、4(4) |
| 窪田空穂 | 2(3) | 今和次郎 | 1(1)、1(2) |
| 久保田万太郎 | 2(2)、2(3) | | |
| 久米正雄 | 1(2)、2(1)、2(2)、2(3)、2(4)、2(5) | ■サ | |
| 栗林一石路 | 2(4) | 斎藤桂助 | 2(1) |
| 栗原一登 | 1(2) | | |

坂口安吾 1(1)、2(9)
 坂口允彦 3(2)
 坂西志保 2(9)
 阪本楠彦 4(3)
 向坂逸郎 2(1)、2(5)、3(6)、4
 (1)
 佐久朝雄 2(1)
 佐々木惣一 1(3)
 佐々木凜一 1(2)、1(3)
 佐多稲子 2(7)
 佐藤垢石 2(3)
 佐藤さち子 2(2)
 佐藤信衛 2(8)
 サトウ・ハチロー 3(1)
 佐藤義彌 2(5)
 ジャンーポール・サルトル 2(1)

■シ

G 3(10)
 J・P・Y 4(4)、4(5)
 志賀直哉 2(7)、3(4)
 信夫清三郎 3(6)、3(10)
 渋沢秀雄 2(2)
 島田晋作 1(2)
 清水幾太郎 2(10)
 清水崑 1(1)、2(4)
 清水立夫 1(1)
 蔣兆和 2(1)
 白木正之 1(1)、2(3)、2(8)、4
 (2)

■ス

末川博 3(9)
 菅井準一 1(2)
 杉浦正時 2(3)
 杉浦明平 3(7)
 杉浦幸雄 1(3)
 F・R・スコット 2(7)
 鈴木信太郎 2(2)、2(7)
 鈴木武雄 3(11)
 鈴木文史朗 3(1)
 鈴木茂三郎 2(2)、3(1)
 鈴木安蔵 4(2)
 エドガー・スノー 1(3)、4(2)

■セ

世界日報社調査部(世界日報社)
 2(1)、2(2)、2(3)
 芹澤光治良 3(3)
 仙波巖 1(1)、1(2)、1(3)、2(3)

■ソ

相馬雪香 1(2)

■タ

バーナード・タウラー 4(4)
 高桑純夫 3(4)、3(11)、4(3)
 高橋泰蔵 2(7)
 高橋正雄 1(3)、2(8)
 高濱虚子 3(6)
 高松棟一郎 2(5)

高松宮宣仁親王 1(2)

高見順 3(6)、4(1)

高峯一愚 2(4)

田川亮三 2(5)

瀧井孝作 3(11)

竹越與三郎 1(2)

竹田俊雄 3(5)

武谷三男 3(8)、3(10)、3(12)、
4(4)

武市健人 3(6)

竹見和子 2(1)

武見太郎 2(9)

辰野隆 1(1)

辰巳亥子夫 2(1)、2(2)、2(3)

田中耕太郎 3(1)

田中英光 2(3)

田中美知太郎 3(5)

田中實 3(4)

田部重治 2(1)

田部井健次 2(7)

田宮虎彦 3(10)

田村宗太郎 2(5)

田村泰次郎 2(7)

樽井近義 2(2)

檀一雄 3(12)

■チ

長文連 2(3)

沈承怡 4(3)

■ツ

土屋清 2(6)、3(1)

土屋喬雄 3(3)

壺井繁治 4(4)

鶴岡信三 3(8)

■テ

T・O生 1(1)

ヘッセル・ティルトマン
2(8)、4(5)

寺崎浩 4(3)

■ト

東京(東京新聞)社会部 2(1)

ピエール・ドゥブレ 3(5)

徳永直 3(7)

所武雄 4(1)

富田八郎太 3(10)

豊崎稔 3(5)

豊島与志雄 1(3)、3(3)

虎の門人 2(4)

鳥居二亭 1(3)

■ナ

永井保 2(4)

中澤不二雄 2(2)

中島健藏 3(6)、4(3)

長島又男 3(9)

中西功 3(12)、4(2)

中野和仁 2(5)

- | | | | |
|-----------------|--------------------------|-------------|----------------|
| 中野五郎 | 2(2)、2(3)、2(5)、2(7)、4(5) | 箱崎満寿雄 | 4(3) |
| 中野重治(なかの・しげはる) | 2(6)、3(4)、3(6)、3(10) | 迫間眞治郎 | 3(7) |
| 中野好夫 | 1(1)、2(2)、2(10) | 橋本英吉 | 3(5) |
| 中村哲 | 3(5)、3(12)、4(1)、4(2) | 花田清輝 | 3(12) |
| 中山伊知郎 | 2(5)、2(10) | 羽仁五郎 | 2(3)、4(3) |
| 中山義秀 | 4(1) | 羽仁説子 | 1(1)、1(2) |
| 那須皓 | 1(2) | 馬場恒吾 | 1(1) |
| 橋橋渡 | 2(2) | 林要 | 2(10) |
| ■ニ | | 林健太郎 | 2(1)、3(2) |
| 新居格 | 2(2)、2(6) | 林麟 | 2(1) |
| 西貢太郎 | 4(5) | 原田鋼 | 3(9) |
| 西澤富夫 | 3(4) | 原彪 | 2(10) |
| 仁科芳雄 | 1(1) | バルザック | 2(10) |
| 西丸四方 | 1(2) | 春山行夫 | 2(6) |
| 新田潤 | 4(5) | H・ハンドルマン | 2(1) |
| 丹羽文雄 | 2(4)、2(10)、3(9)、4(4) | ■ヒ | |
| ■ノ | | P・Mの覚え | 1(1) |
| 野上彰 | 1(2) | P・Q・R | 2(7) |
| 野坂参三 | 2(5)、4(4) | 飛車金八 | 4(5) |
| ■ハ | | 菱山辰一 | 4(4) |
| コンスタンチン・パウトフスキイ | 1(1) | 日高六郎 | 3(3) |
| 芳賀八郎 | 4(2) | 平田哲郎 | 4(2) |
| | | 平野義太郎 | 3(8)、4(1)、4(5) |
| | | 平林たい子 | 1(1)、2(2)、2(4) |
| | | 広津和郎 | 2(8)、3(4) |
| | | ■フ | |
| | | フェルナン・フィゼース | 2(9)、2(10) |

- | | | |
|--------------|---|------------------|
| 深田久彌 | 3(1)、3(2) | (5) |
| 福沢一郎 | 2(8) | 眞下信一 3(12) |
| 福武直 | 3(12) | 益田豊彦 4(5) |
| 藤川栄子 | 1(1) | 松岡駒吉 2(8) |
| 藤田嗣治 | 2(1) | 松田智雄 3(10) |
| 藤林敬三 | 2(6) | 松野一夫 1(3) |
| 藤原咲平 | 2(2) | 松本治一郎 2(8) |
| 婦人民主クラブ常任委員会 | 2(4) | 松本淳三 2(4) |
| 舟橋聖一 | 2(3)、2(4) | 松本正雄 4(4) |
| 舟橋尚道 | 4(1) | 丸山孝夫 1(3) |
| エドマンド・ブランデン | 3(5) | |
| 布呂巴巖太 | 1(1) | ■ミ |
| ■へ | | 三雲祥之助 4(5) |
| ダレル・ベリガン | 1(1) | 水谷長三郎 2(1) |
| ■ホ | | 水原秋桜子 2(3) |
| シドニイ・ビー・ホイップ | 2(10) | 水町青磁 1(1) |
| 北條誠 | 4(2) | 三谷昭 1(2) |
| ヴィクター・ボーズン | 1(3) | 宮川曼魚 2(3) |
| 堀切幸七 | 2(1) | 宮澤俊義 1(1)、3(8) |
| 堀真琴 | 2(3)、3(10) | 宮武謙一 3(7)、4(3) |
| 本田喜代治 | 1(2)、1(3)、2(1)、
2(2)、2(3)、2(4)、
2(6)、2(7) | 三好十郎 3(9) |
| ■マ | | 三好達治 3(8) |
| 毎日(毎日新聞)社会部 | 2(1) | ■ム |
| びじよん・まうすから | 1(1) | 向井一男 2(3) |
| 正宗白鳥 | 2(8)、3(3)、4(4)、4 | 向井潤吉 2(6) |
| | | 武者小路実篤 1(1)、2(9) |
| | | 村上知行 1(1)、2(1) |
| | | 村松恒一郎 3(3) |
| | | 村山しげる 1(3) |

- 村山知義 2(2)
 室生犀星 2(5)、3(8)
- モ
- 森戸辰男 2(7)
 守屋典郎 3(10)
- ヤ
- 八杉龍一 2(10)
 安田徳太郎 4(4)
 矢内原忠雄 3(1)
 山浦貫一 1(3)
 山川菊栄 1(1)
 山口青邨 1(2)
 キク・ヤマダ 2(6)
 山田雄三 2(9)
 山之口獏 3(8)
 山室民子 1(1)、1(2)、1(3)
 山本千枝子 2(7)
- ユ
- 夢田ユメオ (夢田ユメラ)
 1(1)、1(2)
- ヨ
- 楊璟公 2(2)
 横井福次郎 2(1)
 横田喜三郎 1(2)、2(3)
 横光利一 3(1)
 横山泰三 2(2)
- 吉田謙吉 1(1)
 吉村正 3(10)
 吉本明光 1(3)、2(3)
 米内光政 1(1)
 読売(読売新聞)社会部 2(1)
- ル
- エリノア・ルーズベルト 2(4)
- レ
- ラファエル・レムキン 3(9)
- ロ
- 蠟山政道 2(2)、3(2)
- ワ
- Y 1(2)、1(3)
 脇村義太郎 3(2)
 渡邊一夫 1(3)、2(2)、2(8)、3(6)、4(2)
 渡邊三知夫 3(8)
 和田義三 2(1)、2(3)、2(4)
- 姓の読み方が不詳
- 来島勇 2(1)
 菅野忠恕 2(2)
 上瀧ミノト 2(5)
 楼井恒次 (※「楼」は「桜(櫻)」の誤植か?) 4(1)
 千村裕二 4(2)

〈付記〉

- 資料の引用に際し仮名遣いはそのままとし、旧字体は新字体に改めた。また引用部の傍線は稿者による。
- 本稿は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）採択事業、関西大学大学院『豊富な産学連携・地域連携と運動させた「考動力」人材育成プロジェクト』（JPMJSP2150）において、研究課題「1940年代の「鎌倉文庫」に関する基礎的調査と研究：地方の文化現象の一事例として」として支援を受け、その成果の一部を公表するものである。

参考文献

- 小阪部元秀「鎌倉文庫の活動と衰退」（『國文學 解釋と鑑賞（7月臨時増刊号 文壇史事典）』至文堂、1972年7月、pp.152-153.）
- （無署名）「社会」（紅野敏郎、栗坪良樹、保昌正夫、小野寺凡『展望 戦後雑誌』河出書房新社、1977年6月、pp.132-133.）
- 津田薫「社会」（日本近代文学館、小田切進編『日本近代文学大事典 第五巻』講談社、1977年11月、p.151.）
- 福島鑄郎『新版 戦後雑誌発掘』（洋泉社、1985年8月）
- 『彷徨月刊（特集・鎌倉文庫）』（第2巻第8号、弘隆社、1986年7月）
- 小田切進監修『鎌倉文庫と文芸雑誌「人間」』（大空社、1993年3月）
- 土屋定夫「〈研究ノート〉鎌倉文庫の出版物と参考文献について」（『郷土神奈川』第38号、神奈川県立図書館、2000年3月、pp.29-40.）
- 尾崎名津子「鎌倉文庫の単行本出版目録」（『跨境 日本語学研究』第11号、高麗大学校日本研究センター、2021年4月、pp.235-252.）

注

- 1) 採録された巻号の情報については、国立国会図書館デジタルコレクション「人間【全号まとめ】」（<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11007317>、2022/11/14確認）で閲覧できる。
- 2) 採録された巻号の情報については、国立国会図書館「雑誌記事索引採録誌一覧 | 索引（に）」（2022年10月1日現在、https://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/kana_ni.html、2022年11月14日確認）で閲覧できる。
- 3) 採録された巻号の情報については、国立国会図書館デジタルコレクション「文芸往来【全号まとめ】」（<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11211582>、2022年11月14日確認）で閲覧できる。
- 4) 採録された巻号の情報については、国立国会図書館「雑誌記事索引採録誌一覧 | 索引（ふ）」（2022年10月1日現在、https://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/kana_

- hu.html、2022年11月14日確認）で閲覧できる。
- 5) 採録された巻号の情報については、国立国会図書館「雑誌記事索引採録誌一覧 | 索引 (よ)」(2022年10月1日現在、https://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/kana_yo.html、2022年11月14日確認）で閲覧できる。
 - 6) 採録された巻号の情報については、国立国会図書館デジタルコレクション「婦人文庫【全号まとめ】」(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3567559>、2022年11月14日確認）で閲覧できる。
 - 7) 採録された巻号の情報については、国立国会図書館「雑誌記事索引採録誌一覧 | 索引 (し)」(2022年10月1日現在、https://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/kana_si.html、2022年11月14日確認）で閲覧できる。
 - 8) 林眞は「『戦後雑誌目次総覧』——批評と補足——」(日本索引家協会編『書誌索引展望』第1巻第3号、日外アソシエーツ、1977年9月)の中で、「欠号が非常に多い」点を批判(pp.181-183.)している。また、長野昭は「書評 戦後雑誌目次総覧——政治・経済・社会——」(『図書館雑誌』第72巻第12号、日本図書館協会、1978年12月)で、この目次総覧に一定の評価を与えつつも、「欠号補充の必要性などの問題点が残る」(p.627.)点に言及している。
 - 9) NPO 法人インテリジェンス研究所「20世紀メディア情報データベース (トップページ)」(<http://20thdb.jp/>、2022年11月14日確認)。
 - 10) S「編集録」(『社会』第1巻第1号、鎌倉文庫、1946年9月) p.74.
 - 11) 編輯部(木村徳三、鍛代利通、伊東榮之助、松田一谷、松田信子)「編集後記」(『人間』第1巻第1号、鎌倉文庫、1946年1月) p.240.
 - 12) 編集部「『社会』と MONDE について」(『社会』第1巻第1号、鎌倉文庫、1946年9月) p.24.
 - 13) 高松宮宣仁親王、那須皓、伊藤道郎、久米正雄「座談会 新らたなる意志と」(『社会』第1巻第2号、鎌倉文庫、1946年11月) pp.33-39.
 - 14) (無署名)「『読者編集の頁』募集」(『社会』第1巻第3号、鎌倉文庫、1946年12月) p.69.
 - 15) 久米正雄「らくがき帖」(『社会』第2巻第3号、鎌倉文庫、1947年3月) pp.42-43.
 - 16) (無署名)「社告」(『社会』第2巻第4号、鎌倉文庫、1947年5月) p.37.
 - 17) (無署名)「社告——本誌の再発足にあたって——」(『社会』第2巻第7号、鎌倉文庫、1947年9月) p.25.
 - 18) 編集部「編集後記」(『社会』第2巻第8号、鎌倉文庫、1947年10月) p.64.
 - 19) (無署名)「★編集後記★」(『社会』第4巻第5号、鎌倉文庫、1949年5月) p.128.